PROGRAM

FINLAND FILM FESTIVAL in JAPAN
フィンランド映画祭2022

上映タイムスケジュール

	17:00	19:00
11.19 sat	タイタニックを見たくなかった盲目の男(82分) Ⓣ上映後、ヤニ・ペセ プロデューサー Q&A	19:10 カラオケパラダイス (75分)
11.20 sun	ウッドカッター・ストーリー(99分) Ⓣ上映後、ミッコ・ミュッリラハティ監督 オンラインQ&A	19:20 シーヒャー反抗的な妖精 (89分)
11.21 mon	ウッドカッター・ストーリー(99分)	タイタニックを見たくなかった盲目の男(82分) Ⓣ上映前、ヤニ・ペセ プロデューサー 舞台挨拶
11.22 tue	カラオケパラダイス (75分)	シーヒャー反抗的な妖精 (89分)
11.23 wed	ガール・ピクチャー (100分)	タイタニックを見たくなかった盲目の男 (82分)
11.24 thu	シーヒャー反抗的な妖精 (89分)	ウッドカッター・ストーリー (99分)
11.25 fri	タイタニックを見たくなかった盲目の男 (82分)	カラオケ・パラダイス (75分)

＊入場料金　1500円均一［税込］　全席指定・各回入替制
＊全作品日本語字幕
＊各作品の座席指定券の発売開始は11月1日(火)よりユーロスペース劇場窓口および公式HP(www.eurospace.co.jp)にて販売開始

■各種サービスの適用はありません。　■公式HPでは各種クレジットカードでのみ購入が可能です。
■公式HPでご購入のお客様はご鑑賞までに劇場ロビーにある発券機でチケットをお受け取りください。上映時間が近づくと大変混雑しますので、お早目のお受け取りをお勧めします。　■舞台挨拶、Q＆Aは変更・中止となる場合がございます。

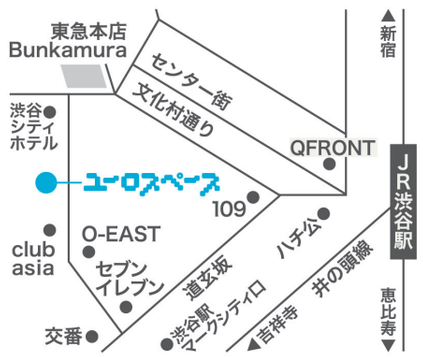
ユーロスペース

渋谷駅徒歩８分／渋谷Bunkamura前交差点左折
東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 3F
TEL:03-3461-0211

劇場への行き方

■「渋谷駅ハチ公前」→「109」の右側の文化村通り→(約3分)→「東急本店」向かって左側の道を進む→「Bunkamura前交差点(松濤郵便局前)」を左折→60m先右側

■「渋谷駅」→「マークシティ内通路」を通り抜け→「道玄坂上交番前」信号を渡り→「セブンイレブン」の左側の道を下る→150m先左側



FINLAND FILM FESTIVAL

フィンランド映画祭2022

in JAPAN

2022年11月19日［土］-25日［金］
ユーロスペース

東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 3F

料金　1,500円均一［税込］　全席指定・各回入替制

劇場 HP ＞ http://www.eurospace.co.jp　公式 SNS ＞

主催 ｜ フィンランド・フィルム・ファンデーション　特別後援 ｜ 駐日フィンランド大使館、フィンランドセンター
協力 ｜ 有限会社ユーロスペース、株式会社アンプラグド、日本映像翻訳アカデミー株式会社

FINNISH FILM FOUNDATION　Embassy of Finland Tokyo　Finnish Institute in Japan フィンランドセンター　ユーロスペース EUROSPACE　unplugged　JVTA 日本映像翻訳アカデミー

FINLAND
FILM
FESTIVAL
in JAPAN

フィンランド映画祭
2022

ドラマ

タイタニックを見たくなかった盲目の男

Sokea mies joka ei halunnut nähdä Titanicia / The Blind Man Who Did Not Want to See Titanic

82分／2021年／カラー／デジタル上映

監督・脚本：テーム・ニッキ
製　作：ヤニ・ペセ、テーム・ニッキ
主　演：ペトリ・ポイコライネン、マリヤーナ・マイヤラ
ハンナマイヤ・ニカンデル、マッティ・オンニスマ
製作国：フィンランド
言　語：フィンランド語

2022年ユッシ賞（フィンランド・アカデミー賞）最優秀主演男優賞、最優秀音響デザイン賞
ノルディスク・フィルム賞

盲目の男の視点で撮影された強烈な映画

愛する人のために地獄を見る男の姿を描いたスリリングな物語。ヤーッコは盲目の障害者で、車椅子での生活を余儀なくされている。彼はシルパを愛している。遠く離れた場所に住む二人は直接会ったことはないが、毎日電話で話している。ある日、ショックな出来事に動揺するシルパの声を聞き、ヤーッコは彼女のもとへ駆けつけることを決意する。家からタクシー、タクシーから駅、駅から電車、電車からタクシー、そしてタクシーから彼女のもとへと、5つの場所で5人の見知らぬ人の力を借りることになるのだが…。
主演のペトリ・ポイコライネンは2000年にヘルシンキの演劇アカデミーを卒業。本作で長編映画初主演を果たす。多発性硬化症の合併症により2013年に障害者年金受給を余儀なくされたペトリにとって、夢のような作品である。
テーム・ニッキ監督は独学で映画製作を続け、数々の受賞歴を持つ。彼の映画『ペット安楽死請負人』は映画祭で成功を収め、2019年アカデミー賞のフィンランド公式エントリー作品となった。本作は、ニッキにとって5作目の長編映画。彼自身は映画『タイタニック』を観たことがない。

コメディ

ウッドカッター・ストーリー

Metsurin tarina / The Woodcutter Story

99分／2022年／カラー／デジタル上映

監　督：ミッコ・ミュッルラヒウチ
脚　本：ミッコ・ミュッルラヒウチ
主　演：ヤルコ・ラハティ
ハンヌ＝ペッカ・ビョルクマン
イーボ・トゥーリ
製作国：フィンランド、オランダ、デンマーク、ドイツ
言　語：フィンランド語

存在の本質に迫るシュールで奇妙な物語

フィンランド北部ののどかな町で露天掘りの鉱山が発掘される。やさしくて楽観的な木こりペペの人生に、奇妙な恐ろしい出来事が起こり始めた。周囲から何もかもが消え去り、ペペは悪の存在を疑い始める。仕事も妻の愛も失い、親友は自殺し、家さえも燃えてしまう。しかし、何が起こっても平然としているペペは、まるで掴みどころのない存在の秘密を抱えているようだ。村は混乱し、闇の世界があらわになる。暗闇の中からは燃える車が現れ、魚や鳥が奇声を上げている。人々は希望を失いつつあった。そんな村に謎の人物が現れる。希望と絶望の戦いが繰り広げられ、ペペの楽観主義と善意は究極の試練にさらされる。
ミッコ・ミュッリラハティ監督はフィンランド北部トルニオ出身の作家・映像作家。アールト大学で脚本とフィクション演出を学び、2012年に芸術学修士号を取得した。短編映画「Tiger」（2018）はカンヌ批評家週間で初公開され、翌年には本作の脚本が彼らのNext Step Awardを獲得した。2016年カンヌ国際映画祭 ある視点部門グランプリ受賞作『オリ・マキの人生で最も幸せな日』（16）の脚本家としても活躍している。

ドキュメンタリー

カラオケパラダイス

Karaokeparatiisi / Karaoke Paradise

75分／2022年／カラー／デジタル上映

監　督：エイナリ・パーカネン
脚　本：エイナリ・パーカネン
製　作：マリアンヌ・マケラ
撮　影：マリタ・ヘルフォルス
編　集：アンティ・レイッコ
製作国：フィンランド
言　語：フィンランド語

カラオケはフィンランドにとって最高のものだ！

フィンランドで最も経験豊富なカラオケ・ホステス、エヴィは、人びとの苦悩を和らげたいと願っている。何千ものバーと何キロもの道のりを経て、彼女はまたしても機材に荷物を詰め込み、フィンランドの北の大地を旅する。世界一シャイな男トニは、ステージでみんなの視線を釘付けに。愛を探しているカリは、誰もいないカラオケの自動車修理工場で歌う。エリナはパーキンソン病でほとんど歩けないが、パンクの歌で踊れるようになった。話すのが辛くて歌うラウラ。カラオケ・パラダイスは、フィンランド人が孤独から抜け出すユニークな方法を見つける物語である。
エイナリ・パーカネン監督は1980年生まれ。人と人とのつながりやコミュニケーションをテーマにした作品を発表している。彼の作品は、クラクフ映画祭やノルディスク・パノラマなどの映画祭で世界的に上映されています。初の長編ドキュメンタリー『My father from Sirius』は2016年にワルシャワ映画祭でプレミア上映され、ヨーロッパ各国で放送された。エイナリはバルセロナのESCACでドキュメンタリー演出の修士号を取得している。

ファミリー

シーヒャ－反抗的な妖精

Sihja - kapinaa ilmassa / Sihja, the Rebel Fairy

89分／2021年／カラー／デジタル上映

監　督：マルヤ・ピューッコ
脚　本：キルシッカ・サーリ
イェンニ・トイヴォニエミ
主　演：エリナ・パトラッカ
ユストゥス・ヘンチュラ
ピルヨ・ロンカ
エレナ・レーヴェ
製作国：フィンランド、オランダ、ノルウェー
言　語：フィンランド語

優しい少年と風変わりな妖精の友情を描いた作品

シーヒャは魅力的で、ちょっと無鉄砲な森の妖精。何か新しいものを求めて都会へ出たシーヒャは、11歳の敏感でちょっと臆病なアルフレッドに出会い、正反対な性格ながら二人はすぐに仲良しになる。ある日、街角に鳥の死骸が大量に降りはじめたことに驚いた二人は、その原因が新しい肥料を発表したばかりの工場にあるのではと疑いをもつ。だが妖精の不思議な力を隠し切れないシーヒャを人々は警戒し、シーヒャに不信感を抱くようになる。アルフレッドとシーヒャは巧妙かつ大胆なアプローチで謎を解き、手遅れになる前に自然界のバランスを取り戻さなければならなかった。
マルヤ・ピョコ（1975年生まれ）は、フィンランド映画学校UIAHを卒業し、映画監督となる。国際的に放映された『Koukussa』や「ブラックウィドウ 黒衣の人妻たち」などの人気テレビシリーズと、『Sisko tahtoisin jäädä』（2010）、『Kekkonen tulee!』（2013）、興行的に大ヒットした「マン＆ベビー」（2017）などの映画の両方の監督として経験を積んできた人物である。

青春ドラマ

ガール・ピクチャー

Tytöt tytöt tytöt / Girl Picture

100分／2022年／カラー／デジタル上映

監　督：アッリ・ハーパサロ
脚　本：イロナ・アハティ
ダニエラ・ハクリネン
主　演：アーム・ミロノフ
エレオノーラ・カウハネン
リネア・レイノ
製作国：フィンランド
言　語：フィンランド語、フランス語

© 2022 Citizen Jane Productions, all rights reserved

三人の女子、三人のフライデー

親友のミンミとロンッコは、いつもお互いを応援している。二人は冒険的な人生を送りたい、経験と情熱に満ちた人生を送りたいと考えている。一方、エマはフィギュアスケートに人生のすべてを捧げている。成功を目指してひたすらに進むエマだったが、ある日ミンミと出会い、初めての恋に落ちる。この出会いが、彼女たちの人生を新しい方向へと動かし始める。ミンミとエマが初恋の感動を味わう一方で、ロンッコは喜びを見つけるために冒険を続ける。三度の金曜日を迎えるごとに、三人の世界は変わってゆく。
アッリ・ハーパサロはフィンランド人監督・脚本家。本作が3作目の長編映画。ハーパサロの長編デビュー作『Syysprinssi』（2016）は、自分の声を見つける作家を追ったもの。7人の作家・監督の集団によって脚本・監督された『Tottumiskysymys』（2019）では、ジェンダーバイアスと権力の構造的な誤用を描いた。この作品で2020年にユッシ賞（フィンランド・アカデミー賞）Nordisk Film Awardを授与された。本作は2023年アカデミー賞国際長編映画賞のフィンランド部門候補作。